



アブラナとなの花は、同じなの

なの花は、アブラナのこと

歌によく出てくる「なの花」は、アブラナのことです。最近^{さいきん}は、石油^{せきゆ}などが輸入^{ゆにゆう}され、工業用^{こうぎょうよう}に使う油^{あぶら}などには、不自由^{ふじゆう}しなくなりましたが、昔^{むかし}は、アブラナからとれる、なたねからしぼった、なたね油^{あぶら}は、食用^{しょくよう}以外にも、とても大切なものでした。今^{いま}でも、なたね油^{あぶら}は、高級^{こうきゅう}なたね^{あぶら}油^{あぶら}です。西日本^{にしにほん}では、秋^{あき}に種^{たね}をまき、次^{つぎ}の年^{とし}の春^{はる}、大きく育^{そだ}ったアブラナが、いっせいに黄色^{きいろ}の花^{はな}を咲^さかせるのは、春^{はる}のありふれた景色^{けしき}だったのでしょう。秋^{あき}に、かり入れ^{かりいれ}をした水田^{すいでん}が、冬^{ふゆ}の間^{あいだ}あいているのを利用^{りよう}して、アブラナ^{あぶらな}を植^うえることが多^{おほ}かったのです。

しかし、最近^{さいきん}は、中国^{ちゅうごく}、カナダ^{かなだ}などから、安い^{やす}なたねが大量^{たいりょう}に輸入^{ゆにゆう}されるようになって、アブラナ^{あぶらな}の畑^{はたけ}は、ほとんど見^みられなくなりました。

アブラナの仲間^{なかま}は、たいてい、なの花^{はな}になる

毎日^{まいにち}食べている野菜^{やさい}のうち、キャベツ^{きゃべつ}、ハクサイ^{はくさい}、ダイコン^{だいこん}、カブ^{かぶ}、カラシナ^{からしな}、アブラナ^{あぶらな}などは、みなアブラナ^{あぶらな}の仲間^{なかま}に入^{はい}ります。収穫^{しゅうかく}しないで畑^{はたけ}に置^おいておくと、どれも、やがて長^{なが}いくきがのびて、なの花^{はな}が咲^さきます。なたねもとれます。（監修^{かんしゆ}・矢野^{やの} 亮^{りやう}）

